

# 北本市障がい者アンケート調査

## 調査結果概要

(速報)

平成 28 年 12 月

### 身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者調査

1	性別・年齢	1
2	主な介助・援助者	2
3	外出の際に困っていること	3
4	健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	4
5	通園・通学して困っていること、学校教育に望むこと	5
6	就労状況、仕事の種類	6
7	必要な就労支援	7
8	悩みごとや心配ごとの相談先	8
9	コミュニケーションや情報取得の際に困ること	9
10	障がい福祉サービスについての満足度	10
11	災害の際に困ると思うこと	11
12	差別や人権侵害を受けていると感じた経験	12
13	近い将来に希望する暮らし方	13

### 家族調査

1	介助・援助をしているの悩みや心配事	14
2	将来の生活についての考え	15

### 障がい者団体調査

1	団体の活動をしていて困っていること	16
2	団体の活動に関して行政に期待する支援	16
3	意見・要望等	17

### サービス事業者調査

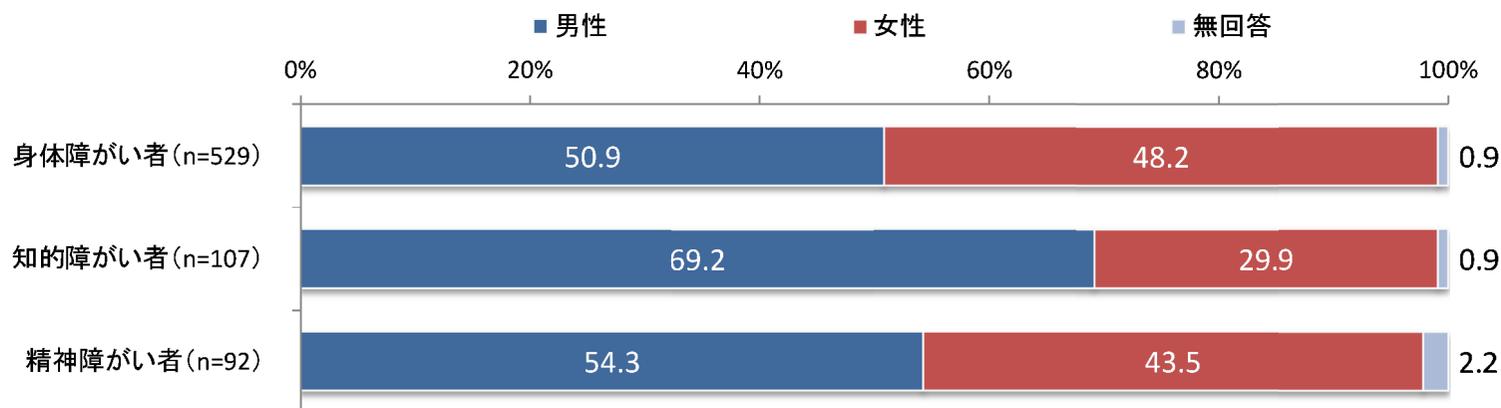
1	サービスの質の評価に関する事業者の取り組み	18
2	事業者が抱える課題	19
3	意見・要望等	19

# 1 性別・年齢

- ・ あなたの性別をお答えください。(○は1つ)
- ・ 年齢(11月1日現在)を記入してください。

**身体障がい者は、男性 50.9%、女性 48.2%で、平均年齢は 70.2 歳**  
**知的障がい者は、男性 69.2%、女性 29.9%で、平均年齢は 30.4 歳**  
**精神障がい者は、男性 54.3%、女性 43.5%で、平均年齢は 47.7 歳**

## <性別>



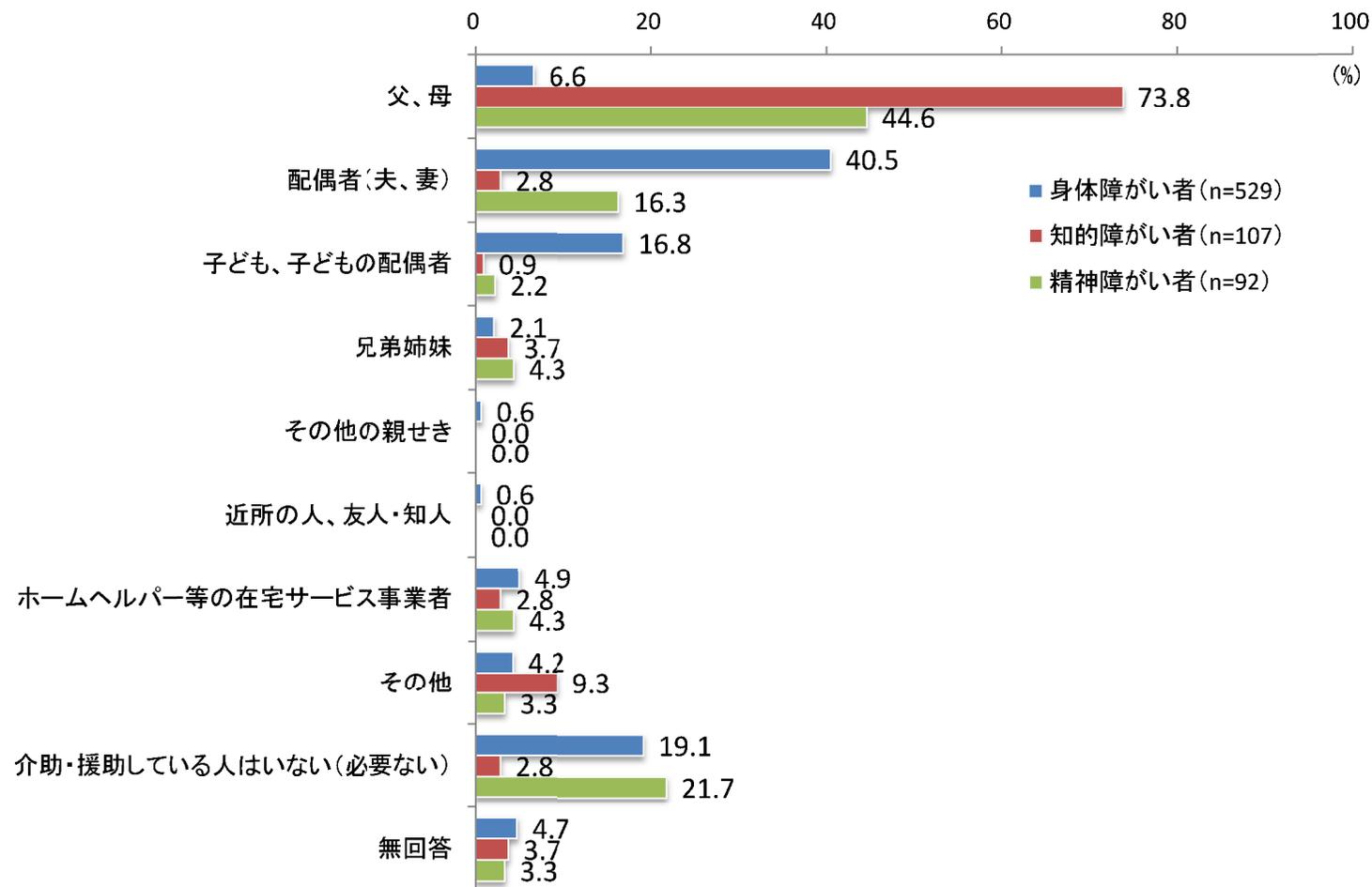
## <年齢>

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答	平均年齢
身体障がい者 (n=529)	0.8%	1.1%	0.9%	2.1%	5.1%	6.6%	20.2%	35.5%	25.9%	1.7%	70.2 歳
知的障がい者 (n=107)	8.4%	17.8%	23.4%	23.4%	15.0%	4.7%	4.7%	0.9%	—	1.9%	30.4 歳
精神障がい者 (n=92)	—	2.2%	6.5%	18.5%	26.1%	21.7%	13.0%	5.4%	—	6.5%	47.7 歳

## 2 主な介助・援助者

・ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。(〇は1つ)

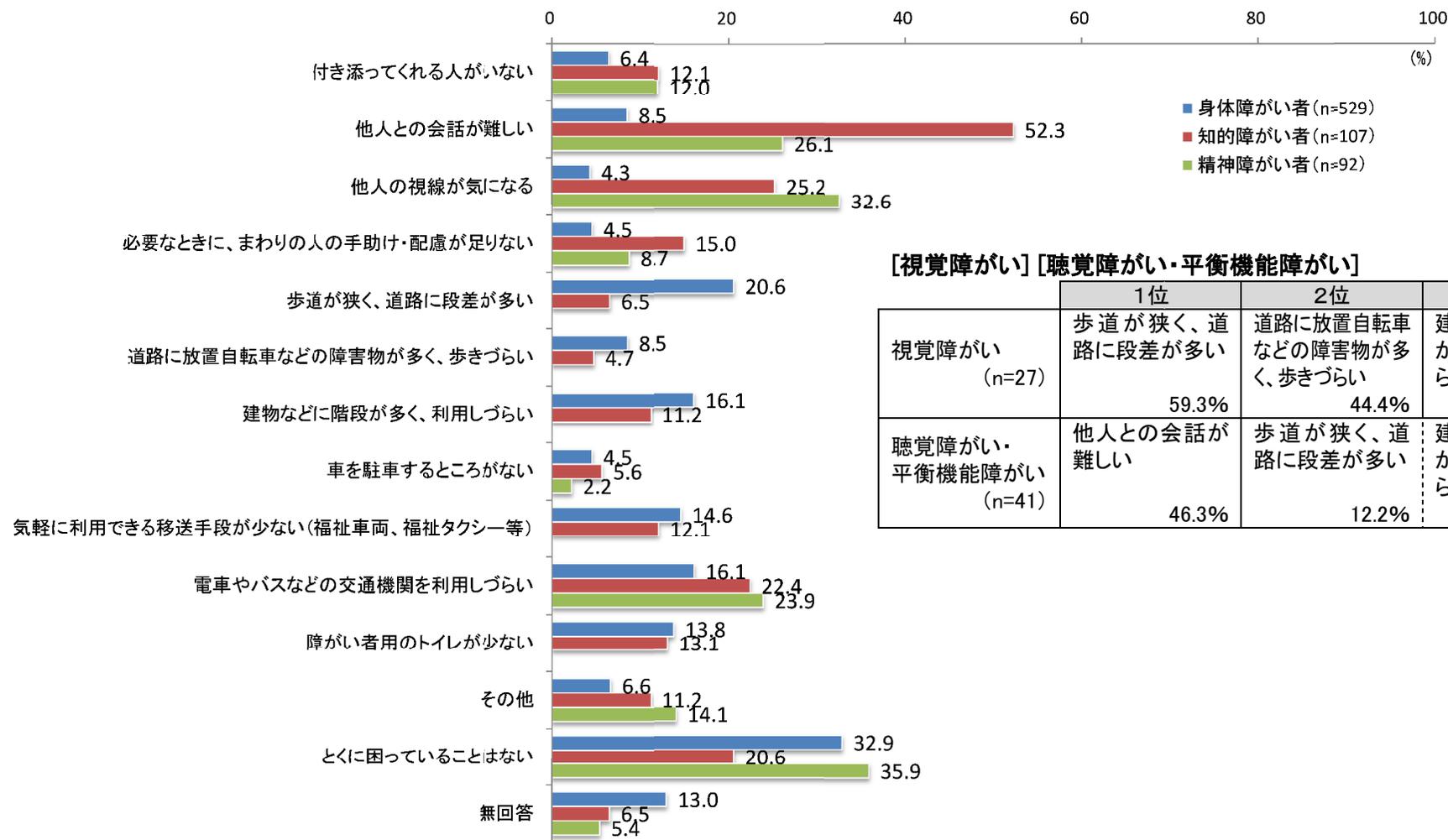
身体障がい者の主な介助・援助者は、「配偶者」が40.5%と最も多く、  
知的障がい者と精神障がい者の主な介助・援助者は、「父、母」がそれぞれ73.8%、44.6%と最も多い。



### 3 外出の際に困っていること

・ 外出の際に困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

外出の際に困っていることとして最も多くあげられているのは、  
 身体障がい者では「歩道が狭く、道路に段差が多い」(20.6%)、知的障がい者では「他人との会話が難しい」(52.3%)、  
 精神障がい者では「他人の視線が気になる」(32.6%)



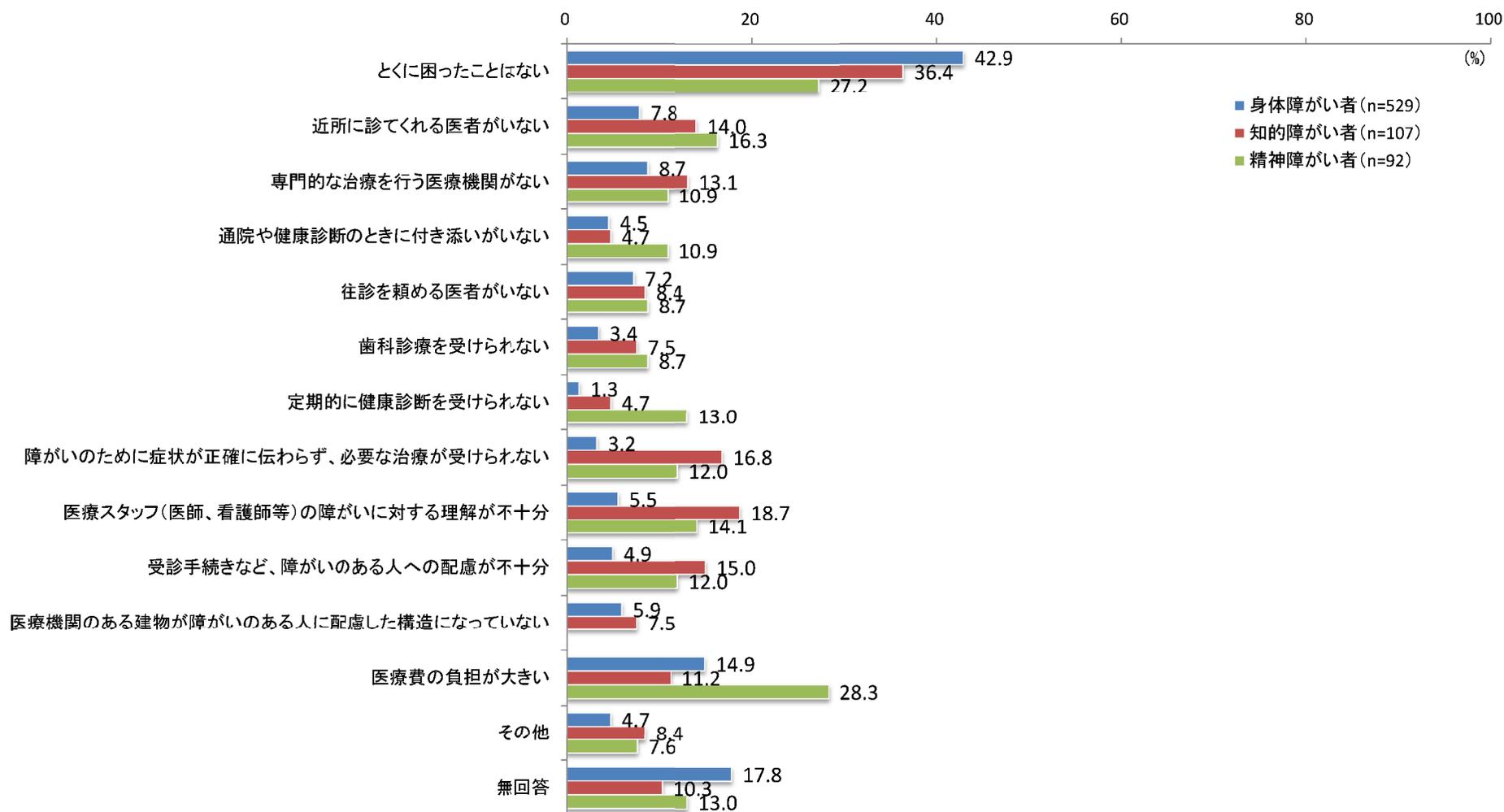
[視覚障がい] [聴覚障がい・平衡機能障がい]

	1位	2位	3位
視覚障がい (n=27)	歩道が狭く、道路に段差が多い 59.3%	道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きづらい 44.4%	建物などに階段が多く、利用しづらい 29.6%
聴覚障がい・平衡機能障がい (n=41)	他人との会話が難しい 46.3%	歩道が狭く、道路に段差が多い 12.2%	建物などに階段が多く、利用しづらい 12.2%

## 4 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

・ 健康管理や医療について、困ったり不便に思ったことがありますか。(〇はいくつでも)

健康管理や医療について困ったり不便に思ったこととして最も多くあげられているのは、  
 身体障がい者と精神障がいでは「医療費の負担が大きい」(身体障がい者 14.9%、精神障がい者 28.3%)、  
 知的障がい者は「医療スタッフ(医師、看護師等)の障がいに対する理解が不十分」(18.7%)



## 5 通園・通学して困っていること、学校教育に望むこと

- ・ 幼稚園や保育園、学校などに通っていて困っていることはありますか。(〇はいくつでも)
- ・ 学校教育に望むことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

通園・通学して困っていることとしては、知的障がい者 25 人のうち 5 人が「通うのがたいへん」なことをあげている。

学校教育に望むこととしては、知的障がい者 25 人のうち 16 人 (64.0%) が「能力や障がいの状況にあった指導をしてほしい」、13 人 (52.0%) が「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」と要望している。

### <通園・通学して困っていること>

	通うのがたいへん	トイレなど、障がいのある児童・生徒向けの設備が整っていない	介助体制が十分でない	先生の理解や配慮が足りない	まわりの児童・生徒たちの理解が得られない	友だちができない	普通学級に入れてもらえない	医療的なケア(吸入・導入等)が受けられない	その他	とくに困っていることはない	無回答
身体障がい者 (n=7)	2 人 28.6%	— —	1 人 14.3%	— —	— —	— —	— —	1 人 14.3%	— —	3 人 42.9%	1 人 14.3%
知的障がい者 (n=25)	5 人 20.0%	1 人 4.0%	2 人 8.0%	2 人 8.0%	2 人 8.0%	1 人 4.0%	— —	— —	2 人 8.0%	13 人 52.0%	1 人 4.0%

### <学校教育に望むこと>

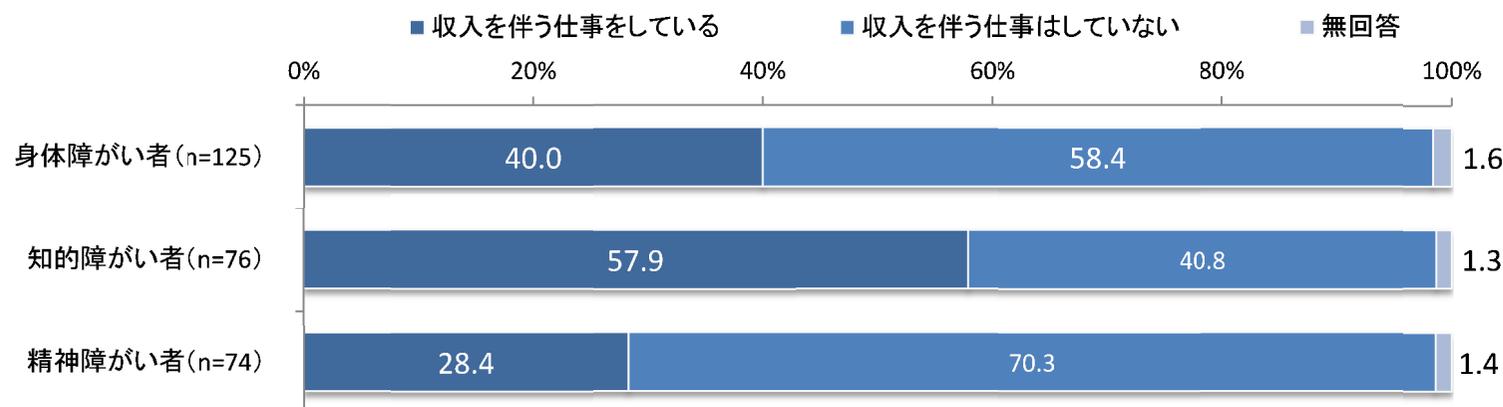
	就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい	能力や障がいの状況にあった指導をしてほしい	施設、設備、教材を充実してほしい	個別指導を充実してほしい	普通学級との交流の機会を増やしてほしい	障がいの状況にかかわらず、普通学級で受け入れてほしい	その他	とくに望むことはない	無回答
身体障がい者 (n=7)	3 人 42.9%	1 人 14.3%	— —	1 人 14.3%	— —	1 人 14.3%	— —	2 人 28.6%	1 人 14.3%
知的障がい者 (n=25)	13 人 52.0%	16 人 64.0%	10 人 40.0%	9 人 36.0%	5 人 20.0%	2 人 8.0%	4 人 16.0%	1 人 4.0%	13 人 52.0%

## 6 就労状況、仕事の種類

- ・ 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(〇は1つ)
- ・ 仕事の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

18～64歳のうち、現在、収入を伴う仕事をしている人の割合は、  
身体障がい者では40.0%、知的障がい者では57.9%、精神障がい者は28.4%

仕事の種類は、知的障がい者では「就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所」が56.8%占める。



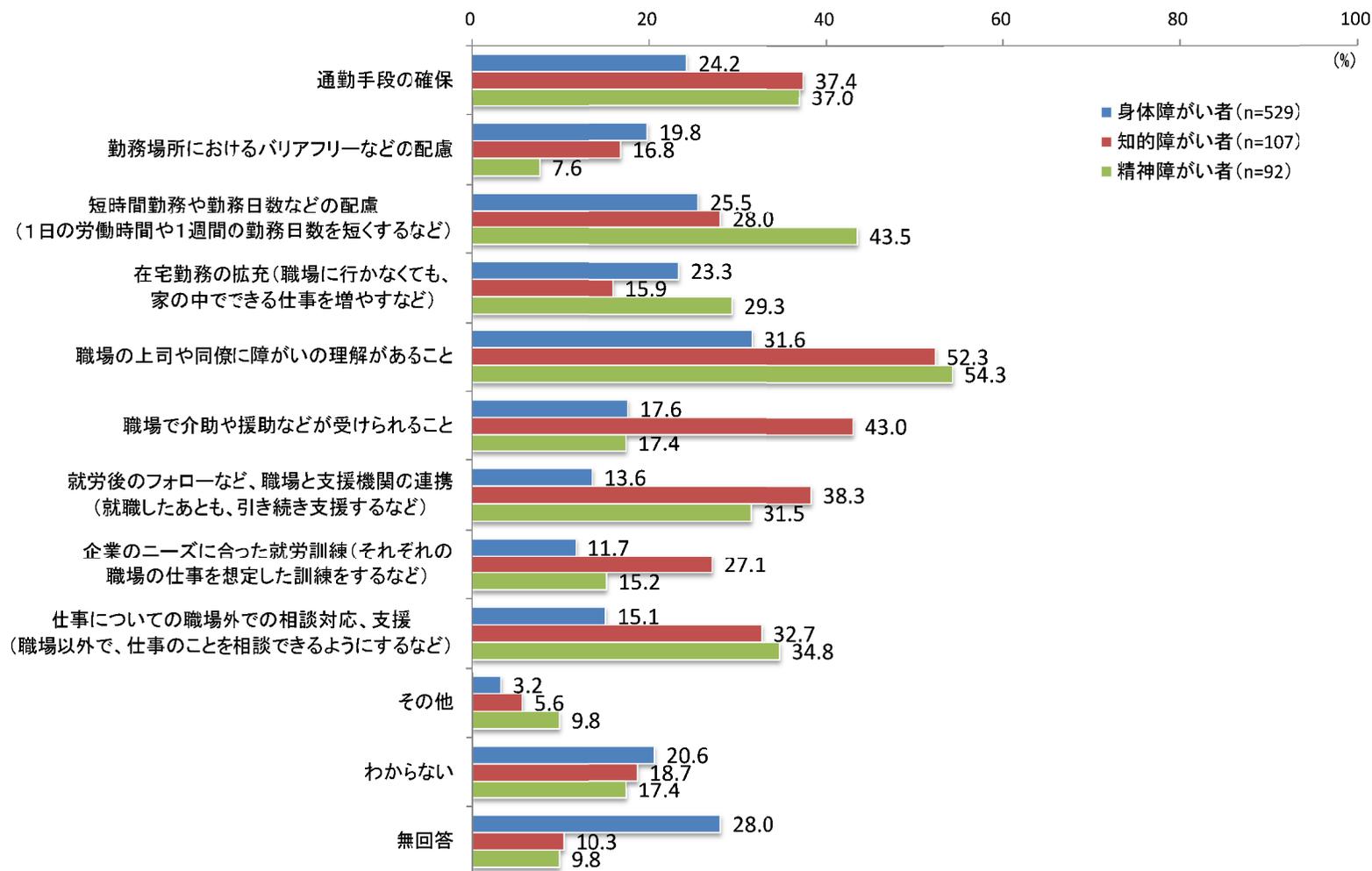
### <仕事の種類>

	自営業(家業の手伝いを含む)	会社・団体等の正規の職員	アルバイト、臨時、パート、嘱託	内職	就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所	その他	無回答
身体障がい者 (n=50)	6人 12.0%	23人 46.0%	15人 30.0%	1人 2.0%	4人 8.0%	—	1人 2.0%
知的障がい者 (n=44)	—	1人 2.3%	13人 29.5%	1人 2.3%	25人 56.8%	2人 4.5%	2人 4.5%
精神障がい者 (n=21)	1人 4.8%	4人 19.0%	12人 57.1%	—	3人 14.3%	1人 4.8%	—

## 7 必要な就労支援

・ あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

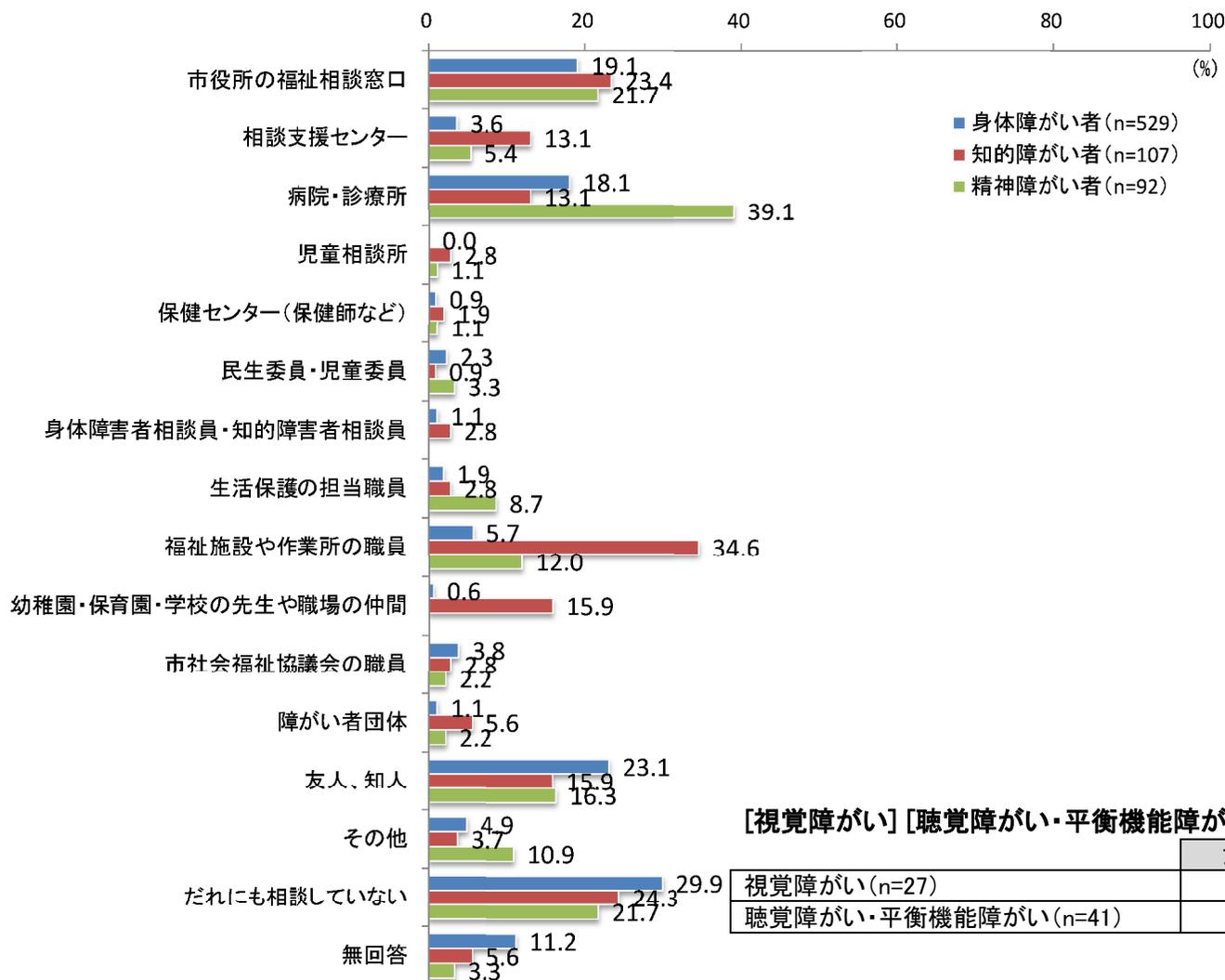
障がい者の就労支援に必要なこととしては、  
身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者ともに、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も多くあげられている。



## 8 悩みごとや心配ごとの相談先

・ あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。(〇はいくつでも)

悩みごとや心配ごとの相談先として最も多くあげられているのは、  
 身体障がい者では「友人、知人」(23.1%)、知的障がい者では「福祉施設や作業所の職員」(34.6%)、精神障がい者では「病院・診療所」(39.1%)  
 なお、だれにも相談していない人が、身体障がい者では 29.9%、知的障がい者では 24.3%、精神障がい者では 21.7%とそれぞれ 2 割以上いる。



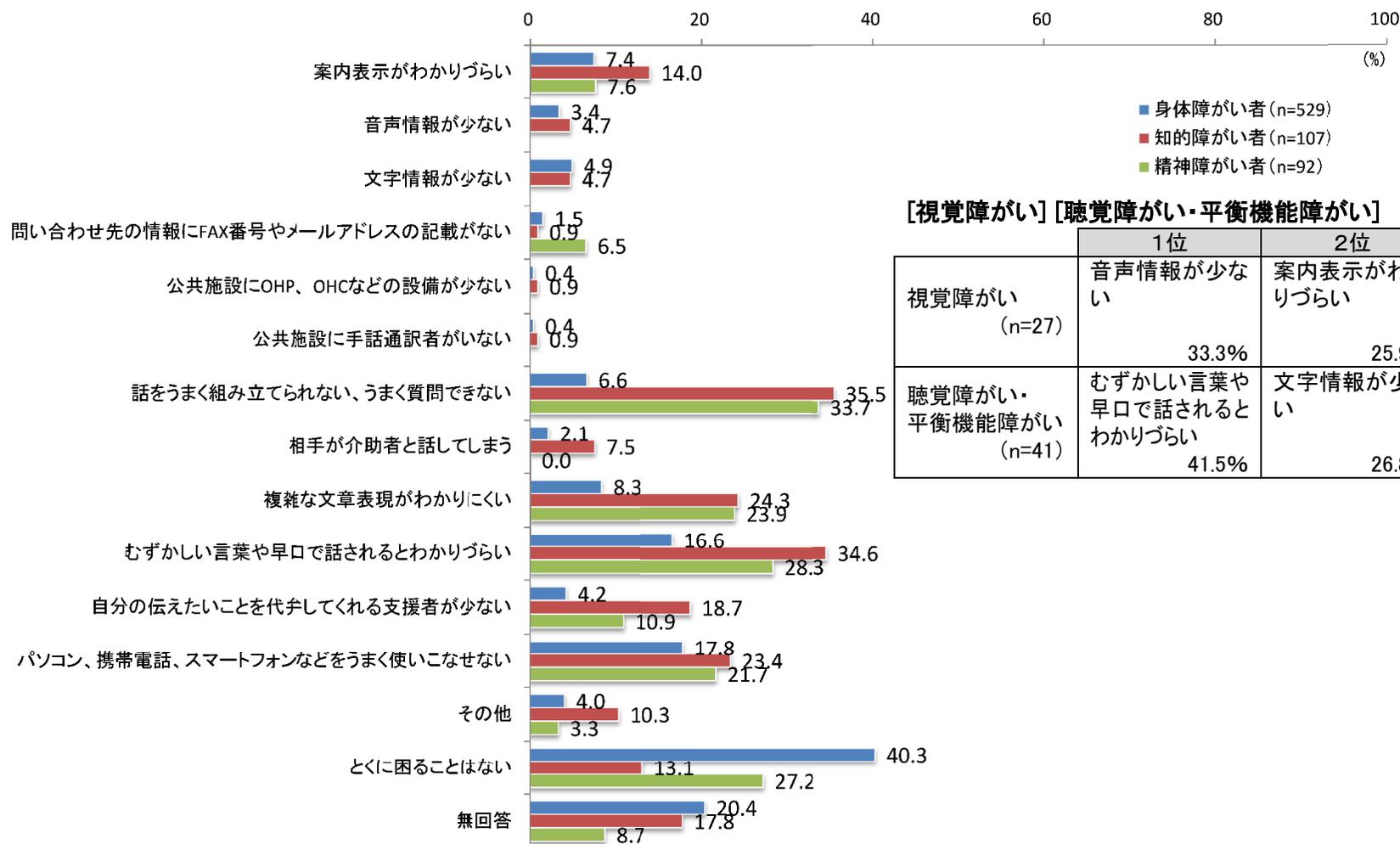
[視覚障がい] [聴覚障がい・平衡機能障がい]

	だれにも相談していない
視覚障がい(n=27)	37.0%
聴覚障がい・平衡機能障がい(n=41)	39.0%

## 9 コミュニケーションや情報取得の際に困ること

・ コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

コミュニケーションや情報取得の際に困ることとして最も多くあげられているのは、  
**身体障がい者では「パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない」(17.8%)、**  
**知的障がい者と精神障がい者では「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」(知的障がい者 35.5%、精神障がい者 33.7%)**



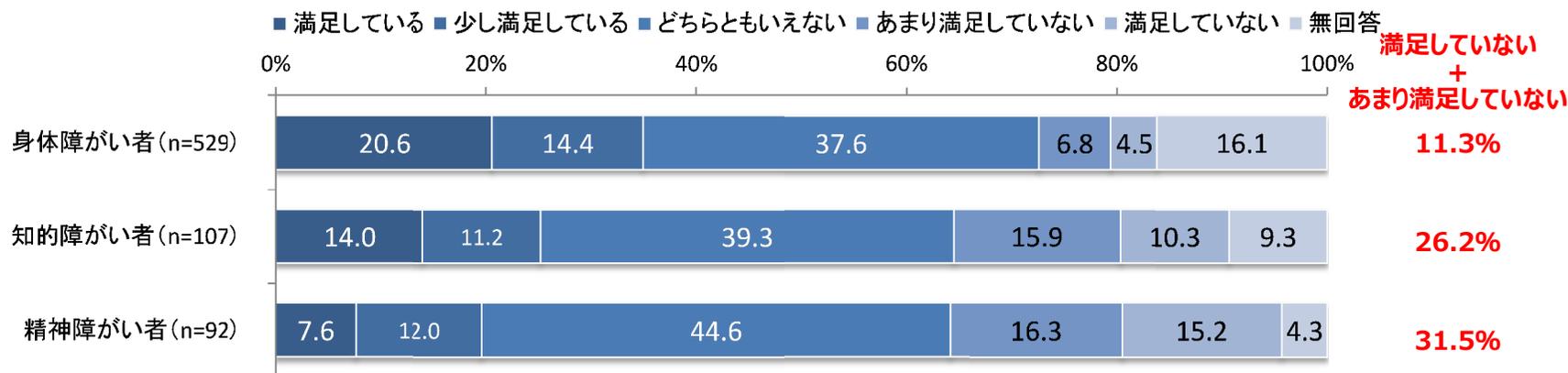
**[視覚障がい] [聴覚障がい・平衡機能障がい]**

	1位	2位	3位
視覚障がい (n=27)	音声情報が少ない 33.3%	案内表示がわかりづらい 25.9%	パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない 22.2%
聴覚障がい・平衡機能障がい (n=41)	むずかしい言葉や早口で話されるとわかりづらい 41.5%	文字情報が少ない 26.8%	パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない 26.8%

## 10 障がい福祉サービスについての満足度

- ・ 市の障がい福祉サービス全般について、満足していますか。(〇は1つ)
- ・ 満足していないのはどのようなところですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

市の障がい福祉サービス全般に満足していない（[満足していない]+[あまり満足していない]）人の割合は、  
**身体障がい者では 11.3%、知的障がい者では 26.2%、精神障がい者では 31.5%**



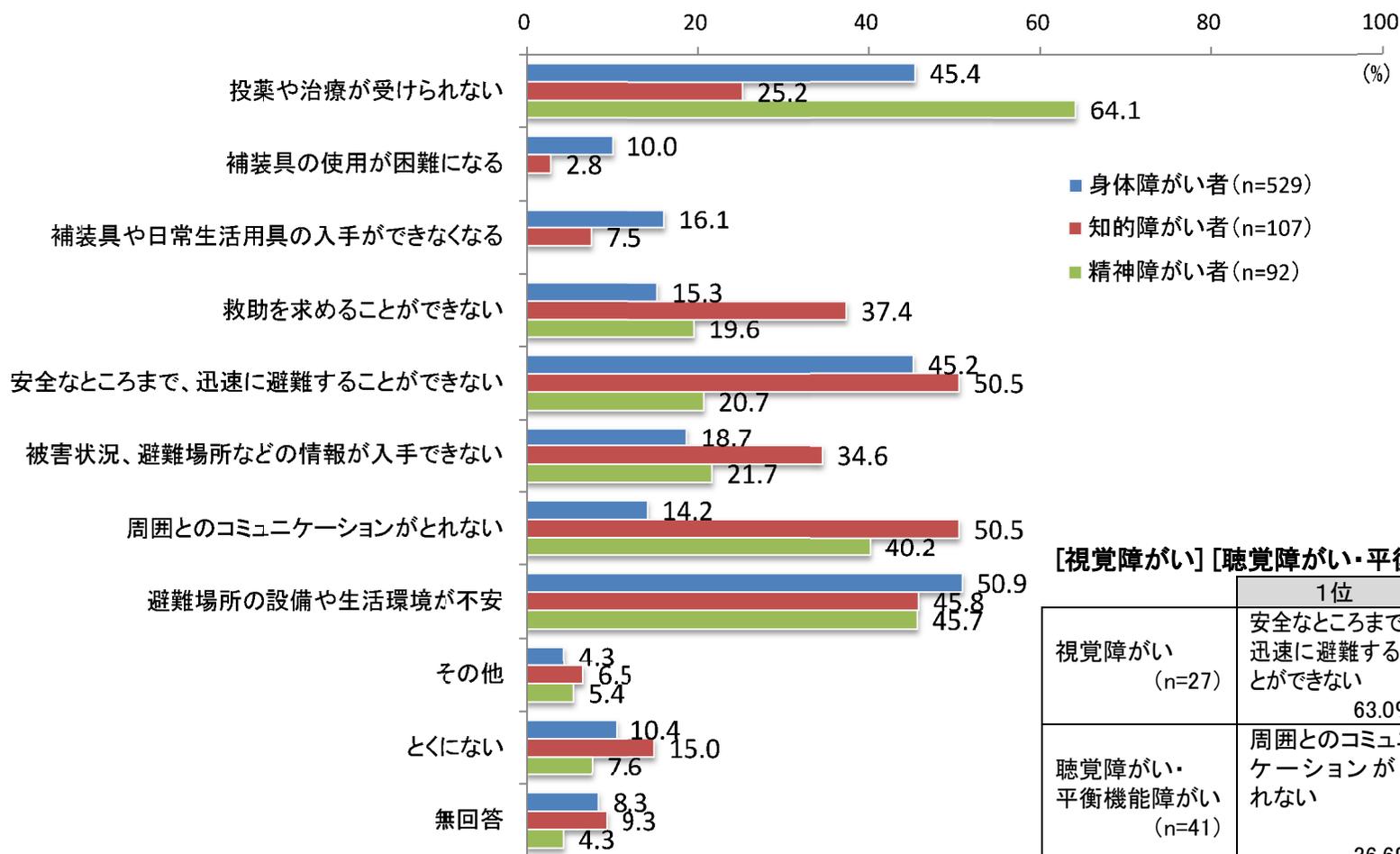
### <満足していない具体的な内容>

身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービスはたくさんあるのかもしれないが、情報が少なく、全部使いこなせない。</li> <li>・ いちいち市役所に行かなければならない。</li> <li>・ ショートステイが近くに無いため、急な両親の病気で介護者が不在になってしまった時の対応に困る。</li> <li>・ 市内に利用できるサービスがない。</li> <li>・ 急な出来事に相談できるように、土、日、夜間に電話できるといい。</li> <li>・ 市役所の職員で手話を知っている人、できる人(簡単な程度でも)がほとんどいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困った時に対応してくれる入所施設がない。</li> <li>・ 医療的ケアを受けられる施設の数が少ない上に近隣にない。</li> <li>・ 色々な手続きがあって、急に困った時にかんたんに利用できない。</li> <li>・ サービスの内容についてこちらから出向いて行かないと、市から情報の説明が聞けない。</li> <li>・ どこに相談したらいいのかわからない。</li> <li>・ 放課後等デイサービスに空きがなく行けていない。</li> <li>・ サービスを選ぶ余地がない、事業者数が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報提供が少ない。従来からある制度新しい制度施設相談方法等々。</li> <li>・ どのような手順でサービスを受ければよいのか。</li> <li>・ どんな福祉サービスがあるか市HPではわからない。</li> <li>・ アルバイトをゴールとする就労支援。正社員で働きたい。</li> <li>・ 障がい者同士のみで相談し合える場所がない。</li> <li>・ 市内で利用出来る施設が少ない。(交流サロン、相談事業所、デイケアなど)</li> <li>・ 市内あるいは近辺に福祉事業所を増やしてほしい</li> <li>・ 手帳を持っていても、利用できない事がたくさんある。</li> </ul>

## 11 災害の際に困ると思うこと

地震や台風などの災害時に困ると思うことはなんですか。(〇はいくつでも)

災害時に困ると思うこととして最も多くあげられているのは、  
 身体障がい者では「避難場所の設備や生活環境が不安」(50.9%)、精神障がい者では「投薬や治療が受けられない」(64.1%)、  
 知的障がい者では「安全なところまで迅速に避難することができない」「周囲とのコミュニケーションがとれない」(それぞれ 50.5%)



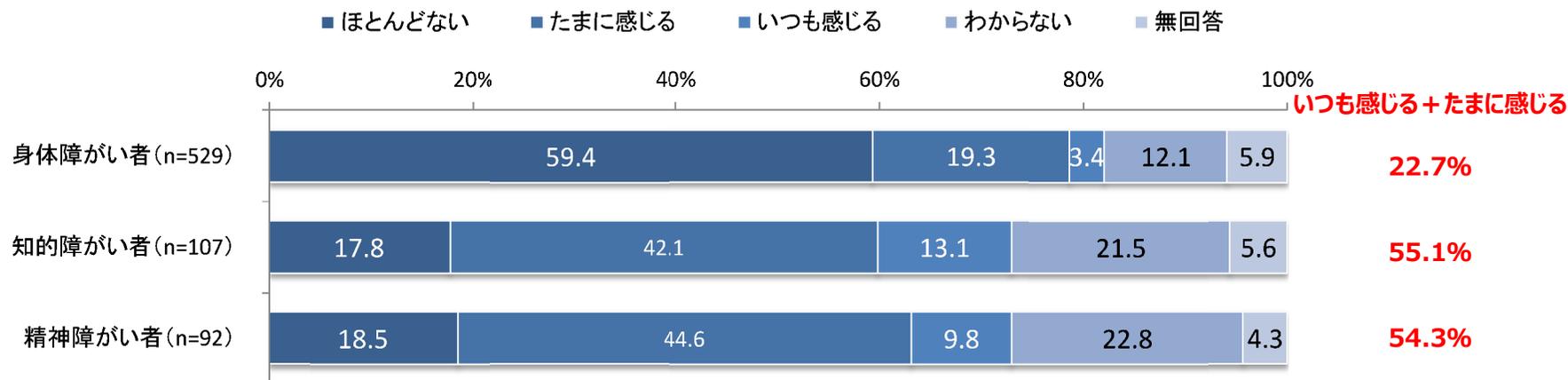
[視覚障がい][聴覚障がい・平衡機能障がい]

	1位	2位	3位
視覚障がい (n=27)	安全なところまで、迅速に避難することができない 63.0%	避難場所の設備や生活環境が不安 44.4%	投薬や治療が受けられない 29.6%
聴覚障がい・平衡機能障がい (n=41)	周囲とのコミュニケーションがとれない 36.6%	安全なところまで、迅速に避難することができない 34.1%	投薬や治療が受けられない 避難場所の設備や生活環境が不安 各 22.4%

## 12 差別や人権侵害を受けていると感じた経験

- ・ 障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることはありますか。(〇は1つ)
- ・ 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害を受けていると感じますか。(自由記入)

障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じたことがある（[いつも感じる]+[たまに感じる]）人の割合は、  
 身体障がい者では 22.7%、知的障がい者では 55.1%、精神障がい者では 54.3%



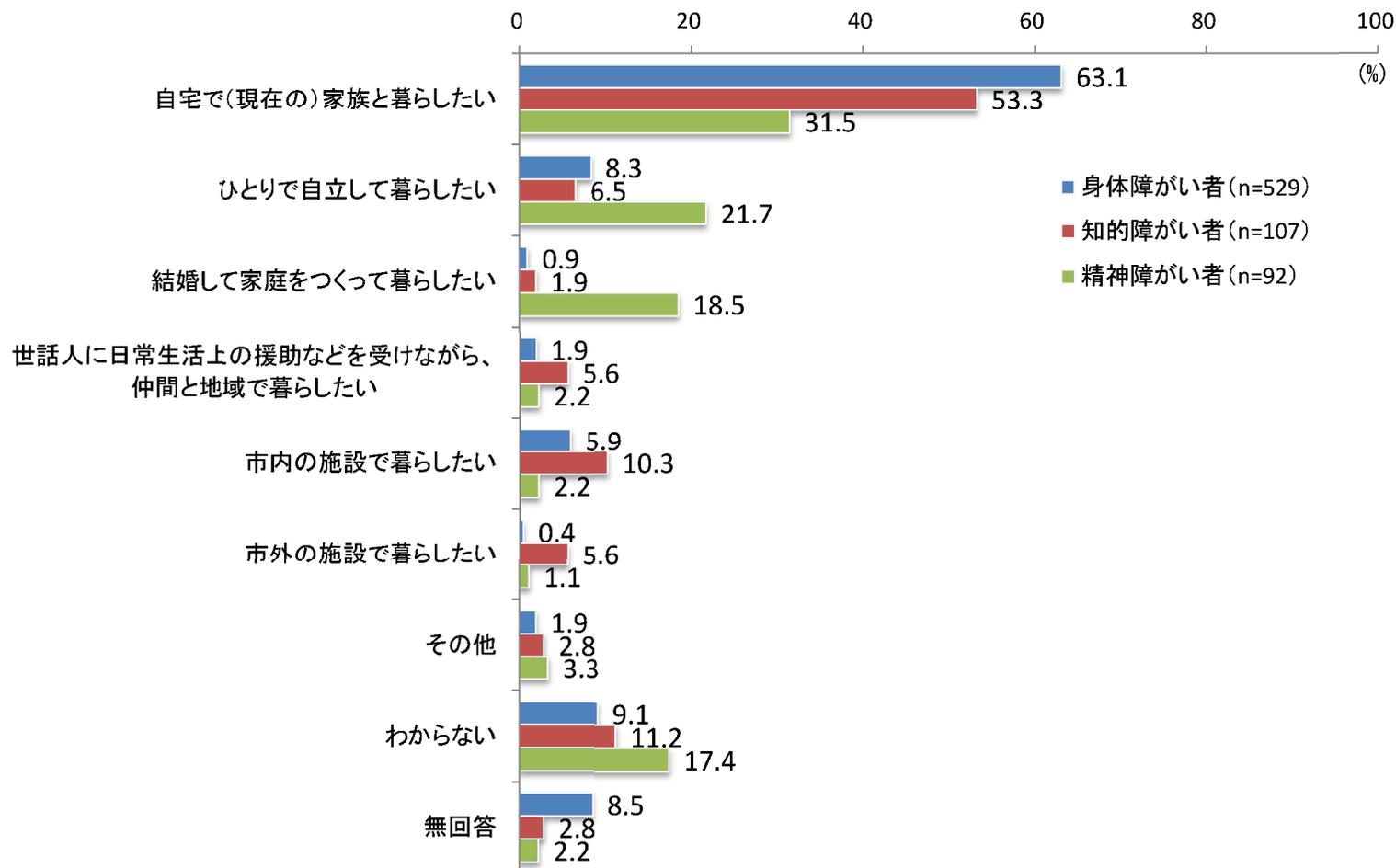
### <差別や人権侵害を感じる具体的な内容>

身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院で待ち合室でじろじろと見られる。</li> <li>・ 公園で、「障がいのある人は、障害のある人だけが利用するところで遊べ」と言われた。</li> <li>・ 知らない人に「足が悪いんですね」とストレートに言われる。</li> <li>・ 保育所に行けなかったのは「本人の状態」+「本人の安全を確保出来ない」との理由だった。</li> <li>・ 小学校の時にじめにあっていた。</li> <li>・ 勤務先での評価・昇進の機会に影響があるかも。</li> <li>・ 防災無線（行政）が聞こえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな声などを出した時、回りの人がジロジロ見る。</li> <li>・ ヘッドギアをしてバギーで出かけると珍しそうに見られる。</li> <li>・ バスを利用した時、（降りる時）手帳を見せたら「使えない」と言われたことがある。</li> <li>・ 病院の受け入れをことわられたこと。</li> <li>・ 教室などの習い事ができない、受け入れの情報もない。</li> <li>・ 健常者と同じ学校に通えない。学校に行く通学バスでシートベルトに施錠されている。</li> <li>・ 命令口調で言われたとき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつをしてもかえしてくれない。</li> <li>・ 変な目で見られる気がする。</li> <li>・ 病院内で受付の人の態度が違う。</li> <li>・ 仕事を探すのが大変。</li> <li>・ 就職しようと思っても、障害者であること理由に受けいれてくれない。</li> <li>・ 家族から「障がいがあることを前面に出すな」と言われたとき。</li> <li>・ ひま人、なまけている、根性・努力が足りない、と思われる気がする。</li> <li>・ 手帳の色で、対応が違ったことがある。</li> </ul>

## 13 近い将来に希望する暮らし方

・ あなたは、近い将来（おおむね5～10年後）どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つ）

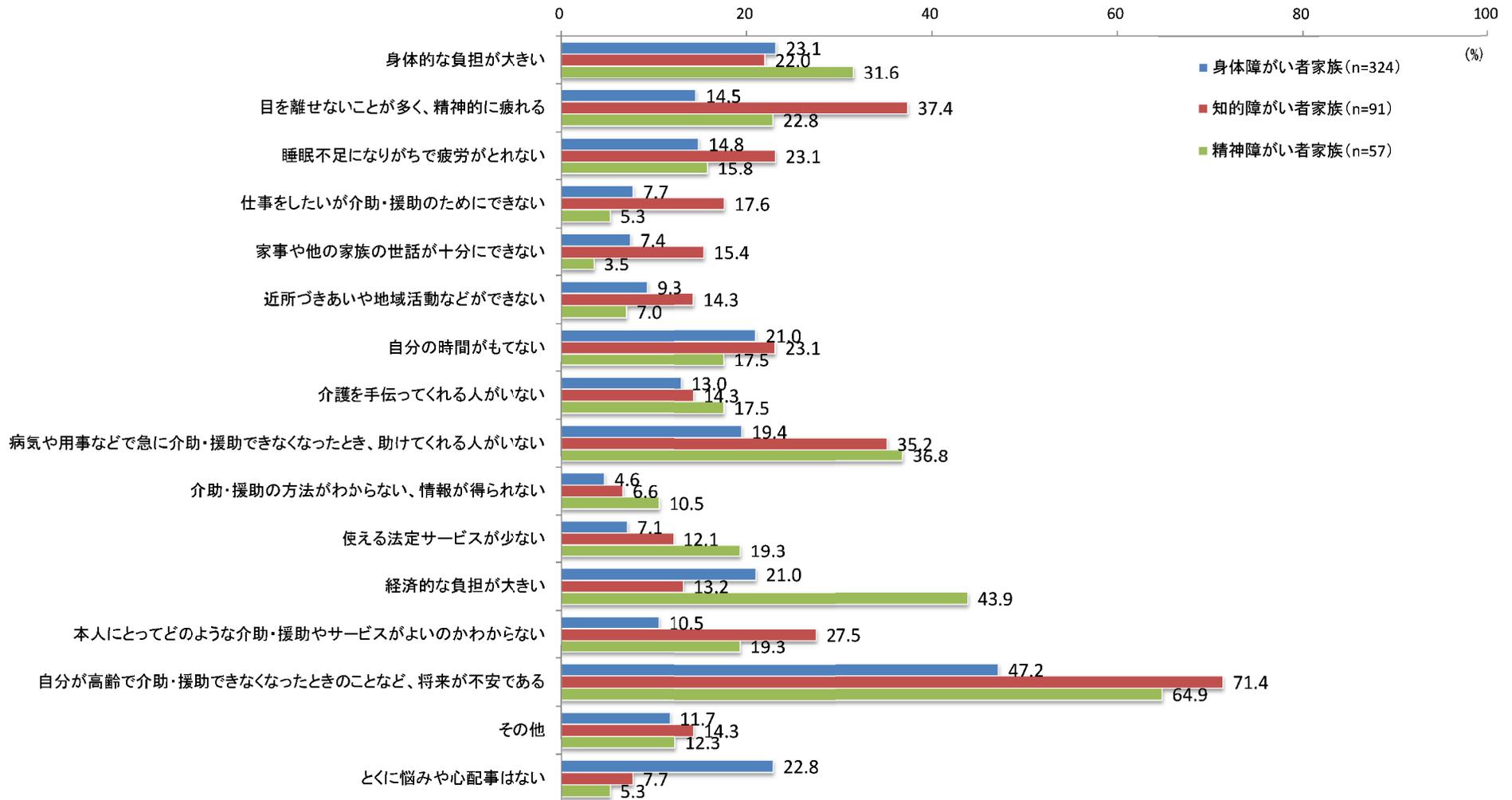
近い将来に希望する暮らし方としては、  
身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者のいずれも、「自宅で（現在の）家族と暮らしたい」と回答した人が最も多い。



# 1 介助・援助をしているの悩みや心配事

・ ふだんから介助・援助をしていて、どのような悩みや心配事がありますか。(〇はいくつでも)

介助・援助をしているの悩みや心配事としては、いずれの障がいにおいても「自分が高齢になったときの不安」が1番目にあげられているが、2番目としては、身体障がい者では「身体的な負担が大きい」、知的障がい者では「目を離せないことが多く、精神的に疲れる」、精神障がい者では「経済的な負担が大きい」がそれぞれあげられている。

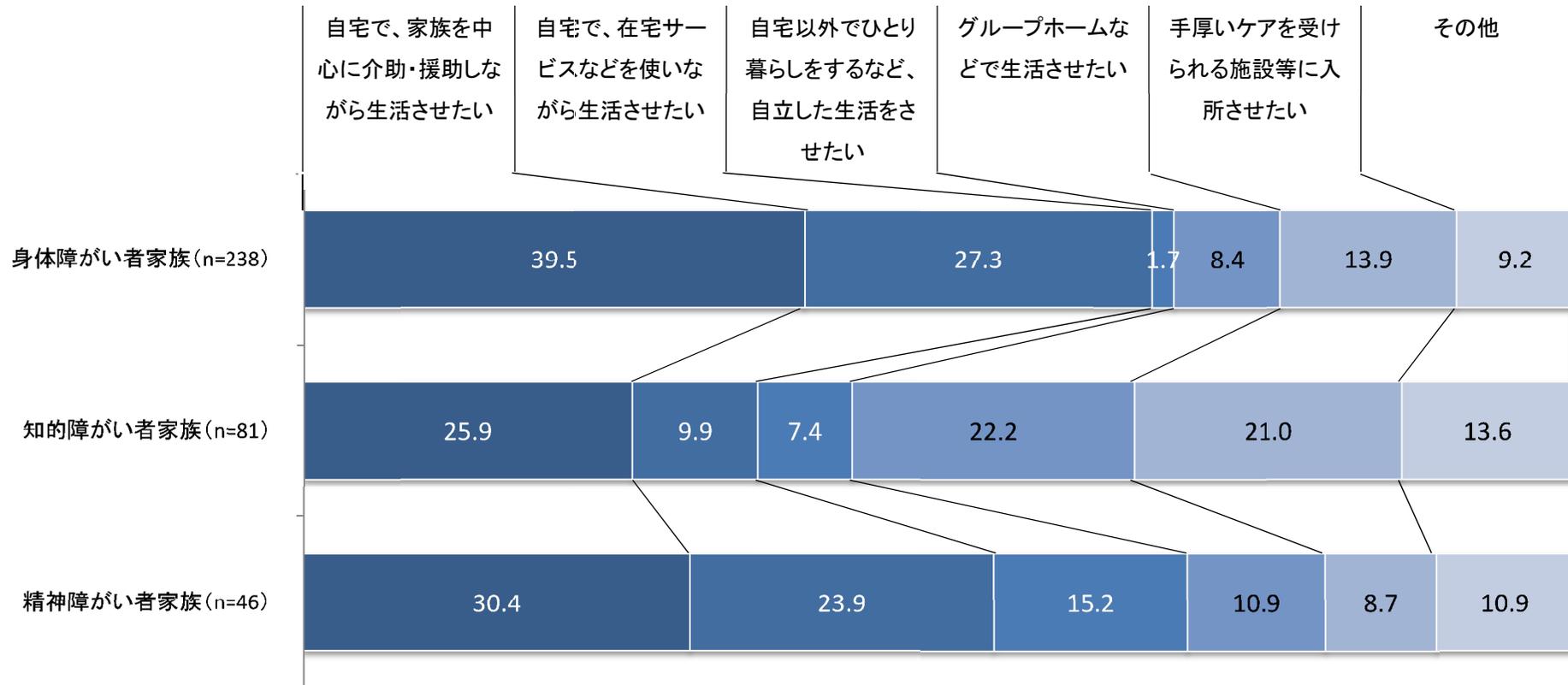


## 2 将来の生活についての考え

・ あなた(介助・援助をしている方)は、本人(あて名の方)の将来の生活について、どのように考えていますか。なお、本人(あて名の方)が18歳以下の場合は、成人した以降の将来の生活について、あなたの考えをお聞かせください。(〇は1つ)

いずれの障がいの家族も「自宅で、家族を中心に介助・援助しながら生活させたい」との回答が最も多い。

知的障がい者の家族のうち22.2%は「グループホームなどで生活させたい」、21.0%は「手厚いケアを受けられる施設等に入所させたい」と回答



## 1 団体の活動をしていて困っていること

- ・ 現在、活動を行っていて、何か困っていることはありますか。(自由記入)
- ・ 施設の老朽化。トイレが1つしかない。場所が駅から遠いので不便。利用しにくい。
  - ・ 会員が増えないこと。
  - ・ 活動する上で、財政面で苦しい。
  - ・ 会員の高齢化、親自身の病気。会員数 35 名中、母親一人家庭が 12 名。親亡き後、当事者が福祉と切れることなく、つながっていけるように。
  - ・ 若い会員が少なく、後継者を育てるのがむずかしい。
  - ・ 月 1 回の定例会を鴻巣保健所で開催しているが、その際、患者自身で車を運転してくる人、家族や知人に送迎してもらっている人、公共交通機関を利用している人と様々。他市では歩行が困難な会員には会場まで送迎をしてくれるところがあるそう。鴻巣市にも要望したが、大きな車両がなく、運転は自分達でやって欲しいとの回答だった。せめて、一人でも二人でも送迎をしてくれたら、大変ありがたい。

## 2 団体の活動に関して行政に期待する支援

- ・ 活動に関して、行政（北本市等）にどのような支援を期待していますか。(自由記入)
- ・ 北本市の場合、近隣の市町にくらべて、精神障がい者の支援、活動場所の理解がまだかなり遅れているようです。今後、心の病をかかえる人は増えてきます。受け皿が今のままでは、心の病をかかえて医療からも福祉からも漂流する人々が出てくるのではないかと思います。
  - ・ スタッフの研修、補強等の相談にのってほしい。施設の移転、設備の問題について相談にのってほしい。
  - ・ 団体のPRを広報紙その他の方法で、市民や行政・民間企業にも周知してほしい。
  - ・ 活動をおこなう上で必要なため、市からの補助金・助成金を交付してほしい。
  - ・ 聴覚障害者は、普段でも情報の入手量が少ないが、災害等の場合はさらに情報がつかめないし、混乱するのは目に見えている。災害等の時は、聴覚障害者へ配慮した支援（避難所への手話通訳等の派遣、安否確認、支援に必要な情報・備品の提供など）をおこない、聴覚障害があっても安心安全に生活できるようにしてほしい。
  - ・ 島根県の南雲市ではナースが自宅を訪問して様子を見て回っている。自宅がいちばん安心するのです。それでコミュニティーナースはナースの集まりで団体を作り、ドクターも参加していますよ。行政で協力してよいのではないか。
  - ・ メンバーの年齢も 50 歳以上が大半なので、パーキンソン病以外、他の病気も併発しているケースが大半。他の病気の援助も考えてもらいたい。
  - ・ 歩行が不自由なメンバーも多く、市内循環バスを利用するにあたり、わかりやすい停留所の場所、発着の時間の説明（パンフレット、大きな字で）をしてもらいたい。

### 3 意見・要望等

- ・ 現在、策定を進めている「第三次北本市障害者福祉計画」に盛り込んでほしい事項はどのようなことですか。(自由記入)
- ・ その他、行政への提案や要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

#### [計画書に盛り込んでほしい事項]

- ・ 3障がい者間の社会資源の格差をなくしてほしい。
- ・ 障がいについての啓蒙活動を盛り込んでほしい。
- ・ 北本市手話言語条例の制定。
- ・ 行政職員、民間企業、一般市民、学校教育等での手話の習得のための施策を進めてほしい。
- ・ 手話がわからない難聴者、中途失聴者のために必要な要約筆記者の育成のための講習会を市主催で開催、また市独自で要約筆記者の派遣事業をおこなう。
- ・ 聴覚障害者の生命を守るため、災害時の配慮を充分におこなう。

#### [要望]

- ・ かばざくらは建物も老朽化し男女別々のトイレもなく、大変不便な中で運営されています。精神の病は若く 10 代で発症するケースが多く、若い人々がステップアップのため、生活リズムや社会訓練の場として足をはこぶには、立地の悪さと古い建物がネックになっていることもあるようです。行政のご協力で駅周辺に格安な不動産物件や障がい者にご理解のある方の情報など有りましたらお聞かせください。行政の管理されている空建物などがありましたらご検討ください。よろしくお願い致します。
- ・ 障がい福祉課の職員はみな忙しそうなので、人員を増やしてほしい。
- ・ 「精神障がい者の明るい未来のために」フォーラムに予算をつけてください。
- ・ 市へ聴覚障害者協会として要望書を提出したが文書回答が遅くて困る。要望書に対する回答は良いものが少ない。私達にとっては切実で必要なものなので、ぜひ予算化できるようにしてほしい。
- ・ 市職員は、聴覚障害や聴覚障害者に対する理解を深めるため、手話研修を含め、必要な研修をすべての職員が受講してほしい。
- ・ 市との交渉（話し合い）の時に、市長にも出席してほしい。

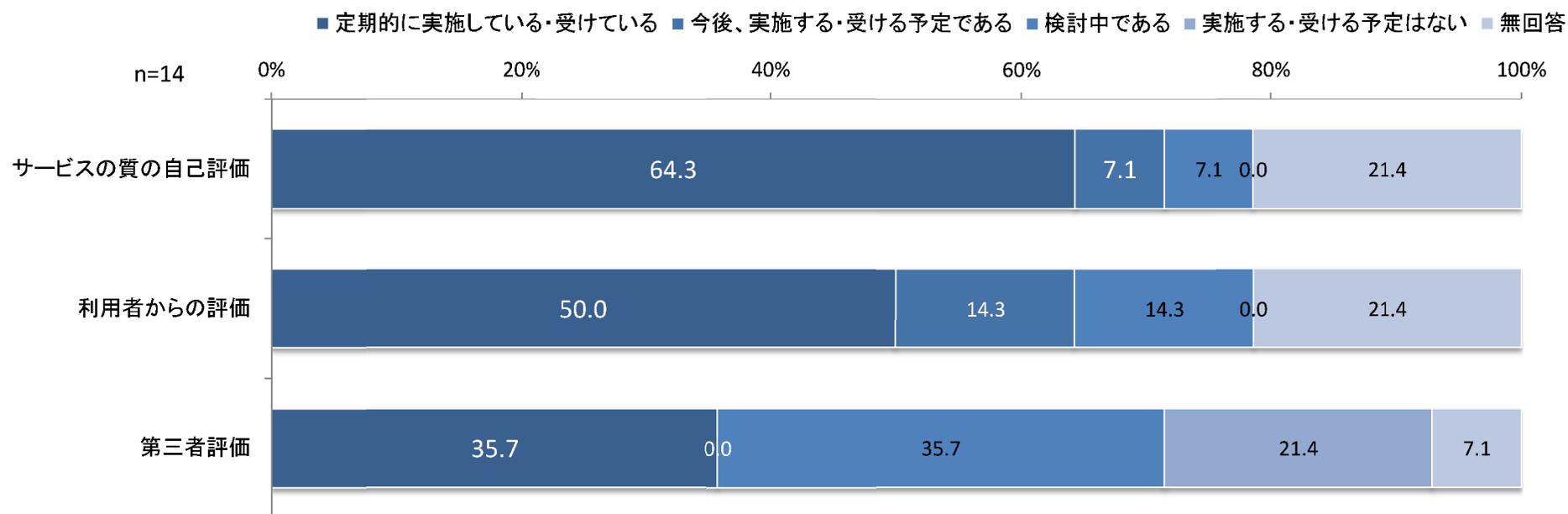
# 1 サービスの質の評価に関する事業者の取り組み

・ 貴事業所のサービスの質の評価に関する取り組み状況についてお答えください。(項目ごと、〇は1つずつ)

サービスの質の自己評価については、14 事業者中 9 事業者 (64.3%) が、定期的実施している・受けている。

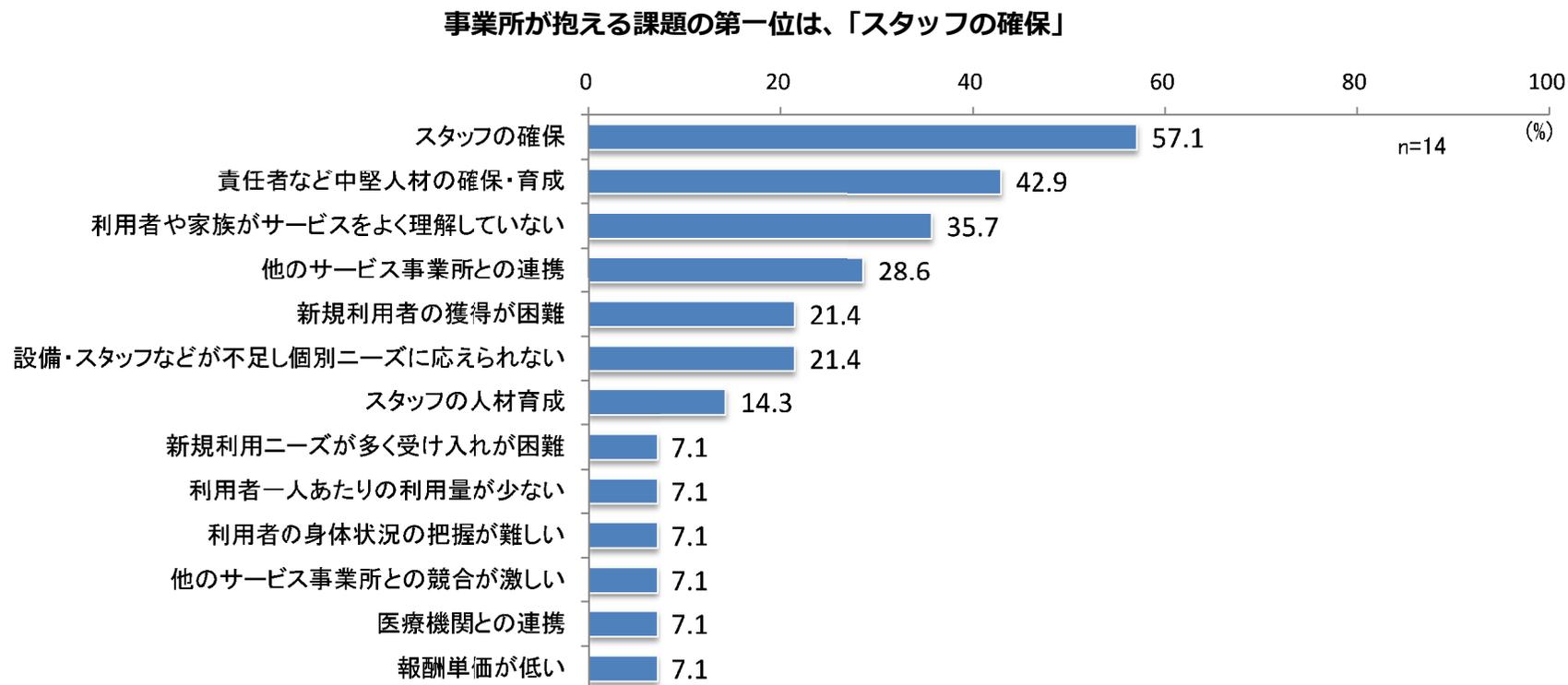
利用者からの評価については、14 事業者中 7 事業者 (50.0%) が、定期的実施している・受けている。

第三者評価については、14 事業者中 5 事業者 (35.7%) が、定期的実施している・受けている。



## 2 事業者が抱える課題

・ 貴事業所では、経営的な面で、あるいは、障がい福祉サービスの事業展開の面で、現在、どのようなことが課題となっていますか。(あてはまるものに○)



## 3 意見・要望等

- ・ 北本市内に、共同生活援助や相談支援サービス事業所を増やしていただきたい。
- ・ 行政は福祉サービスの入口であるため、専門性を持った職員を配置し、事業者や市民からの問い合わせに迅速に対応していただきたいと思えます。また、ホームページ等を活用し、制度の情報などを掲示していただきたい。
- ・ 北本市独自の「自立支援協議会」の設置。障害のある方々に行ったアンケートの声に応じて欲しい。利用者さん目線での対応。
- ・ 障がい者の方は個々に違い、1人1人にケアが異なり、ヘルパーとして対応がむずかしく、良かれと思いアドバイスをしてもなかなか受け入れてもらえず、残念に思えることが多いです。